



持続可能な看護職育成を目指した公開講座

医学部 教授 津本 優子

医学部基礎看護学講座では、15年以上にわたって地域の小学生を対象に、「夏休み子ども看護体験」を開催してきました。将来の職業として看護に興味を持ってもらえるよう、令和7年度は中学生も対象とし、それぞれに体験プログラムを組みました。小学生には、骨格標本で骨の名前を調べたり、赤ちゃんの人形を抱っこする・車椅子を押すなどの体験をしてみたり、手洗いがきちんとできているか可視化できる器械を使って確認してもらい、などを実施しました。一方中学生には、未来のナース体験として、足浴や薬の準備などを体験してもらいました。

毎年開催していることから、小学生の中には継続して参加してくれている子供たちもいます。感想文からは、体験を楽しみながら、自分の体のことなどに興味を持ってくれている様子が伺えました。また中学生は、具体的に看護職の仕事に興味を持って取り組んでくれています。少子化により将来の医療職の人材確保も課題となる中、少しでも医療や看護に興味を持つ子供たちが増えることにつながればと思います。

